

プロキシ・テーブルを使用したデータのマイグレート

概要: この文書では、プロキシ・テーブルとリモート・サーバを使用して、SQL Anywhere 5.5.x のデータベースから Adaptive Server Anywhere (ASA) 7.0.x のデータベースにデータをマイグレートする方法を説明します。

この文書では、プロキシ・テーブルとリモート・サーバを使用して、SQL Anywhere 5.5.x のデータベースから Adaptive Server Anywhere (ASA) 7.0.x のデータベースにデータをマイグレートする方法を説明します。この方法を実行するには、両方のバージョンのソフトウェアがインストールされている必要があります。ただし、次の手順を変更し、ASA 7 のデータベース間でデータをマイグレートする、または ASA 6 のデータベースから ASA 7 のデータベースにデータをマイグレートすることもできます。

バージョン 7.0.2 以降の ASA には、sa_migrate というストアド・プロシージャがあります。このプロシージャを使用すると、ここで説明する方法よりも簡単にデータをマイグレートできます。

1. 次のコマンドを使用して、ASA 7 データベースを作成します。

```
dbinit destination.db
```

2. 次のコマンドを使用して、SQL Anywhere 5.5.x データベースを作成します。

```
dbinit source.db
```

3. 次のコマンドを使用して、destination.db を起動します。

```
dbeng7 destination.db
```

4. 次のコマンドを使用して、source.db を起動します。

```
dbeng50 source.db
```

5. Interactive SQL (ISQL) を使用して、destination.db に接続します。

6. destination.db に接続した状態で、ISQL で次のコマンドを実行します。

```
CREATE TABLE employees ( id integer, rep char(40) );
CREATE TABLE result (id integer, rep char(40), company_name char(40) );

INSERT INTO employees VALUES( 1, 'Eric');
INSERT INTO employees VALUES( 2, 'Ali');
INSERT INTO employees VALUES( 3, 'Rob');
COMMIT;
```

7. ISQL を使用して、source.db に接続します。

8. source.db に接続した状態で、ISQL で次のコマンドを実行します。

```
CREATE TABLE company ( id integer, company_name char(40) );

INSERT INTO company VALUES( 1, 'Sybase');
INSERT INTO company VALUES( 2, 'iAnywhere');
INSERT INTO company VALUES( 3, 'Financial Fusion');
COMMIT;
```

9. SQL Anywhere 5.0 ドライバを使用して、システムの ODBC データソースを作成します。
このデータソース名は ASAProxy とします。次の値を入力して、このデータソースを設定します。
ユーザ ID : dba
パスワード : sql
サーバ : source
データベース名 : source

10. destination.db にまだ接続していない場合は、ISQL を使用して destination.db に接続します。

11. destination.db に接続した状態で、ISQL で次のコマンドを実行し、migration_source という名前の ASA リモート・サーバを作成します。

```
CREATE SERVER migration_source CLASS 'asaodbc' using 'ASAProxy';
```

これで、手順 9 で作成した ASAProxy データソースを使用し、destination.db から source.db にアクセスできます。

12. destination.db に接続した状態で、ISQL で次のコマンドを実行し、prox1 というプロキシ・テーブルを作成して company テーブル内のすべてのカラムを取得し、それらを prox1 テーブルに格納します。

```
CREATE EXISTING TABLE prox1 AT 'migration_source...company';
```

13. 次のコマンドを発行して、すべてのレコードがプロキシ・テーブルにあることを確認します。

```
SELECT * FROM prox1;
```

14. 手順 6 で destination.db に作成したテーブルに prox1 テーブルからデータを移動します。ID がプライマリ・キーであり、1 対 1 の関係になっているため、次のコマンドを発行します。

```
INSERT INTO result  
( SELECT a.id, a.rep, p.company_name  
FROM prox1 p, employees a  
WHERE p.id = a.id );
```

15. 次のコマンドを発行し、prox1 テーブルから結果のテーブルにデータが移動したことを確認します。

```
SELECT * FROM result;
```

16. これで、プロキシ・テーブルとリモート・サーバを削除できます。

```
DROP TABLE prox1  
DROP SERVER migration_source
```

リモート・データベースのアクセス、プロキシ・テーブル、リモート・サーバの詳細については、Adaptive Server Anywhere のマニュアルを参照してください。